



日時 平成 29 年 8 月 2 日 (水) 13:30~16:30
テーマ 読み書きに困難のある児童生徒の対応
講師 元大阪府堺市立日置荘小学校 通級指導教室担当
広島県廿日市市教育委員会特別支援教育アドバイザー 山田 充 氏

8月2日は大変暑い日となりましたが、公開講座会場の舞鶴支援学校には 95 名の参加者が集まりました。特別支援教育コーディネーターや通級指導教室担当の先生、支援学校の教員を中心に、幼稚園から高等学校まで幅広い参加でした。

講師は長年大阪府堺市の通級指導教室で子どもたちの指導にあられた、山田充先生です。現在は広島県廿日市市の教育委員会で特別支援教育アドバイザーをされています。山田先生はまず、子どもへの指導はいろいろな支援方法を手あたり次第やってみるのではなく、アセスメントをもとに対応を考えていくことが前提だと強調されました。子どもの困難の要因を考えずに自分の引き出しにある支援方法を試すことは、子どもたちの「やってもできない経験」を積み重ねることになってしまいます。特別支援教育は、論理的に原因を明らかにし、原因に対応する支援方法を考えていく「科学」です。「読み書きに課題がある」とすると、どこに問題があるのか、音韻認識なのか、聴覚的短期記憶なのか、速度なのか、ワーキングメモリーなのか等、その原因を明らかにするために多角的なアセスメントが必要です。講義では実態把握のための検査方法についても御紹介いただきました。

また、通級指導教室や取り出しの場面だけではなく、通常の学級での取組も重要であり、通級とクラスがタイアップして、読み書きの指導をしていくことが大切だと述べられました。中学生以上の指導では、なぜできないのか本人が納得できるように説明してトレーニングすることや、得意なことを伸ばして将来の方向性を視野に入れる取組も大切です。また、漢字や英単語を長期記憶にインプットするためには、小テストの直前に覚える時間を設けても短期記憶に入るだけなので効果がないため、授業の始めに小テストを予告し、授業の最後に小テストをすることで 50 分間覚え続けるというトレーニングになるというエピソードでは、なるほど、と納得する参加者も見られました。山田先生が携わった教材も紹介していただき、実践に直接活かせる講座となりました。



＜参加者アンケートより感想＞（一部抜粋）

- ・講師の先生の長年の経験と知識からたくさんの実践事例を通して対応方法を教えていただいた。
- ・まずはしっかりと子どものアセスメントをすることが大切だと思った。
- ・子どもたちがやる気をもって学んでいけるような支援の大切さ、アセスメントの大切さについて改めて教えていただいた。
- ・通常の学級での指導の視点、通級指導教室と連携した指導のヒントが得られてよかった。

10月、11月は、通級指導教室担当者向けの講座が予定されています。10月31日は「通級における構音障害への指導」、11月14日は通常の学級に活かせる通級指導と連携事例②「実践後の成果と課題の検討」を実施します。いずれもSSCで行います。